

架け橋 —君の夢 つなごう未来へ—

平成17年4月23日(土) 於まつもと市民芸術館

第一部:ジャズ演奏

- 演奏 宮澤 克郎 (ピアノ)
米窪 悟 (バイオリン)
二木 康次 (ギター)
- 曲目 「さくらさくら」 他

高校時代に出会い虜になった音楽、ジャズ。その後プロやアマの演奏家としてジャズと係わって来た3人が各々思いを込めて「Heavenly」(二木)「Full Bloom」(宮澤)のオリジナル曲の他「さくらさくら」を演奏した。



第二部:講演

◎テーマ 『今、日本人の国際化で求められているもの』

■講師 百瀬 健昭

■演題 「アメリカの教育制度と日本人の国際化」

国際化とは異文化交流。世界は相互依存で成り立っている。これから必要なのは、流暢な英語を話す事ではなく、自分自身の考えを明確に伝え、自分の立場を理解させ、問題を処理する能力がある事を認めさせる事である。

■講師 土肥 妙子

■演題 「国際的であること」

個人の「国際化」とは一自身の感じ方で世の中を感じ、自分の頭で何が正しいかを考え、勇気を出して相手に表現すること。自分とは異なる相手をも尊重すること。

第三部:合唱

- 指揮 竹重 敦 宮下 靖弘
- ピアノ 川上 秀美
- 合唱 母校愛のリレー記念合唱団

(県陵鮎乃会、県陵音楽部OB(あひるの会28・29会卒)、県陵音楽部、恩師、先生他)

30年前の県陵祭における音楽部の感動のメインステージを再現。80名を超える大合唱団が新たに結成され、丸々1年間をかけ20回に及ぶ練習を重ねるといふ空前絶後の企画であった。最大の驚異はその会場。県陵の体育館を飛び出し、竣工直後の松本が誇る市民芸術館でのステージという夢を実現させた。



■県陵27回卒業生 祝賀会

同期の仲間が100名、学校関係者、恩師と合唱の先輩・後輩30名の盛大な祝賀会になりました。30年の空白も一瞬であの日に戻り、思い出話や近況報告に尽きることなく話が弾み、旧交を温めることができました。また役員は3年の準備、大成功の母校愛のリレーということもあり、美酒に酔いしれました。県陵生であった喜びを心底感じた一日でした。

鮎乃会からのメッセージ

人と人との出会いが、どんなに素晴らしいものかということに正に感じさせてくれたもの、それが「母校愛のリレー」でした。第27回卒の私達がバトンを次の方々に繋いでから3年が過ぎ、今つくづく人生の節目を感じる年齢となっています。あの時、先輩方から現役生まで、様々な方々と交わることができ、協力していただき又若いエネルギーを分けてもらい、この上なく貴重な経験をさせていただきました。それらは全て人生の肥やしとなり、今もしっかりと心の奥に根付き、また新たな芽を出そうとさえしています。自分の今までを振り返り、友の生き方を参考にし、この何にも代え難い財産を羅針盤にして、あの時から第2のスタートを切ったとも言えます。

人と人をつないでくれた母校愛のリレーは、人生で何が一番大切かを、もう一度考えさせてくれました。この出会いを広く長くいつまでも紡いでいくことができれば、そんなに素晴らしいことはないと思っています。